

## 第3学年国語科学習指導案

指導期間 平成17年8月26日～9月16日  
指導学級 3年3組 男14名 女18名 計32名  
指導者 今 西 顕 隆

- 1 単元名 大事なことをたしかめよう(教材名 光村3年下「すがたをかえる大豆」「食べ物がかせになろう」)
- 2 単元について

### (1) 児童の実態

児童は、1学期の「ありの行列」を読み取る学習において、研究の過程に沿って読み取ることにより、段落には形式段落と意味段落があることを知り、まとまりに気を付けながら文章を読み取ることができるようになった。また、「おもしろいもの、見つけた」では、自分の興味をもったことについて紹介する作文を書く活動をとおして、文の区切りを付けるために段落に分けて書くことと、書き出しやおわりの文を意識して書くことができるようになった。

しかし、文章を読み取る際には、段落ごとに小見出しを付けられない児童がおり、段落の中心となる文章を見つけたり、文章の構成をとらえながら筆者の考えをまとめたりすることについては不十分である。また、作文を書かせると、思いついた順序で文章を書いたり、内容のまとまりを気にせずに感覚的に段落を付けたりし、何を伝えたかったのかが分からない文章になっていることがある。このことから、筆者の考えを読み取ったり、自分の考えを書いたりできるようにする指導が必要である。

### (2) 教材について

「すがたをかえる大豆」は、九つの食品を大豆の手の加え方という観点から五つの工夫に分けて整理し、大豆のよさを訴える構成となっており、段落構成や重要語句が明確である。そのため、この教材は、段落相互の関係に目を向けさせやすく、様々な事例から導き出される筆者の考えを読み取らせる学習に適している。

「食べ物がかせになろう」は、「すがたをかえる大豆」の文章の構成を生かしながら、興味のある食べ物について説明する文章を書く活動に取り組みさせる教材である。このことは、段落相互の関係などを工夫に目を向けて書こうとする事を中心を明確にして書くために力を高めさせることができると思う。

この二つの教材は、学んだ文章構造を自分の伝えたいことに生かすという点から、関連をもたせることができる。このように関連付けることにより、調べるために食べ物に関する様々な読み物に関心をもたせたり、調べた事を伝えるために適切に表現したりする態度の育成にも発展させることができるものである。

### (3) 指導にあたって

本単元は、「つかむ」「たしかめる」「ひろげる」の三つの段階に分けて、次のように指導する。

「つかむ」段階では、「すがたをかえる大豆」を読み、身近にある食べ物には知られていないことがあることをあることを確かめる。このことにより、教材文への関心をもたせるとともに、児童自身も食べ物について調べる活動について興味をもたせたい。

「たしかめる」段階では、「すがたをかえる大豆」で挙げられている食品を筆者がどのように分類しているかを読み取らせる。その際に、小見出しを考えさせることにより、段落の中心を読み取らせる。また、全体の構成にも目を向けさせ、筆者が伝えたい事柄をどのように表現しているか考えさせ、「食べ物がかせになろう」の学習につなげられるようにする。

「ひろげる」段階では、教材名「食べ物がかせになろう」をめあてとし、段階「調べた事を類似性の観点で整理する」、段階「まとまりを段落として順序を考えながら構成する」、段階「段落と段落の続き方に注意して記述する」に沿って、「調べた事をまとめる活動におけるスモールステップ」を設定して指導することにより、伝えたい事柄を明らかにさせ、伝わりやすい文章を組み立てることができるようにさせる。さらに、段階～の終末において、書く目的をふり返らせる「ふり返りカード」を用い、読み手に伝えるための工夫や努力を確かめさせ、伝わりやすくなったかを考えさせることにより、常に書く目的を意識して活動に取り組みせられるようにする。

### 3 単元の目標

- (1) 食べ物の秘密について関心をもっていろいろな読み物を読んだり、調べた事を相手や目的に応じてよりよい表現に書いたりしようとする態度を育てる。 (国語への関心・意欲・態度)
- (2) 身近な食べ物について、調べた事柄の選択や段落相互の関係を工夫してまとめることにより、書こうとする事の中心を明確にして書くことができる。 (書く能力)
- (3) 大豆を食品に加工する過程とその理由を読み取ることにより、中心となる語や文、段落相互の関係に気を付けて読むことができる。 (読む能力)
- (4) 食べ物の説明の順序を考えさせることにより、段落の役割や指示語、接続語の使い方を理解することができる。 (言語についての知識・理解・技能)

### 4 指導計画(全11時間)

教材	時	学習内容	評価規準 【 】は評価の観点 ( )内は評価方法
すがたをかえる大豆	1	大豆について知っていることや全文を読み、感想を話し合う	【関】大豆で作られている食品についての感想を話したり書いたりしている(発言・ノート) 【言】新出漢字を正しく読んでいる(音読・発言)
	2	学習の見通しをもつ	【読】文章にまとめりごとに、初発の感想を整理している(発言・ノート)
	3	「はじめ」の部分から、筆者の提示した話題を読み取る	【読】大豆の特徴をとらえて、筆者が説明しようとしていることをつかんでいる(発言・ノート)
	4	大豆をおいしく食べる工夫について読み取る(形式段落 )	【読】大豆の手の加え方と食品を関係付けて、段落の中心をとらえている(発言・ノート)
	5	大豆をおいしく食べる工夫について読み取る(形式段落 )	【読】大豆の手の加え方と食品を関係付けて、段落の中心をとらえている(発言・ノート)
	6	「おわり」の部分を読み取り、それぞれの段落の小見出しを付ける	【読】形式段落ごとに小見出しを付けている(ワークシート)
	7	段落の構成を考える	【読】「はじめ」「なか」「おわり」の役割を考えて、文章を分けている
食べ物をはかせるようになる	8	食べ物について書く事柄を決める	【関】食べ物に関する本を読み、誰にどのような事柄を伝えるのかを決めている(記録カード)
	9		【書】食べ物の調べた事柄から、伝えたい理由を明確にして、書く事柄を選んでいる(記録カード)
	10	書く事柄に関係のある材料を集める	【書】書こうとする事に関係のある材料を収集している(記録カード)
	11		【書】書こうとする事の中心に沿って必要な材料を選んでいる(記録カード)
	12	集めた材料を分類し、書く材料を決める	【書】中心となる事柄とそれに必要な材料をつなげ、段落ごとにまとめている(短冊原稿用紙)
	13		【書】書き出しやまとめの文に対応させながら段落の順序を考えて文章を組み立てている(短冊原稿用紙)
	14	段落のつながりを考えて、文章を見直し、清書をする	【書】文章を読み返して、間違いを正している(短冊原稿用紙)
	15		【言】段落の付け方や指示語、接続語の使い方に気を付けて書いている(原稿用紙)
	16	食べ物の説明文をグループごとに製本し、作品を交流する	【関】友だちの文章を読み、よいところを見つけている(発言・感想カード)
	17		
18			

4 「食べ物がかせになろう」における各時間の指導

< 8・9 / 18時間 >

(1) 目標

- ・食べ物の本を読むことにより、伝えたいという思いをもつことができる。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ・食べ物について調べた事柄の中から、伝えるねうちのある事柄を選ぶことができる。  
(書くこと的能力)

(2) 展開

段階	学 習 活 動 (太字ゴシックはスモールステップ)	指 導 上 の 留 意 点 (太字ゴシックはふり返しカードの活用)
導 入  (25)	<p>1 単元の課題を把握する</p> <p>食べ物について調べて、本に まとめよう</p> <p>2 本時の学習課題を把握する</p> <p>食べ物を調べて、どんなこと を本にするのか決めよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物について知っていることや疑問に思っていることを話し合わせる</li> <li>・ふり返しカードに掲載している学習計画から、調べた事をまとめる過程を理解させる</li> <li>・本時のスモールステップを示し、食べ物の伝えたい事柄を決める手順を把握させる</li> </ul>
展 開  (58)	<p>3 題材となる食べ物を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある食べ物の名前を出し合う</li> <li>・調べる食べ物を決める</li> </ul> <p>4 題材とした食べ物の知識をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を読み、記録カードに分かったことや感想を書く</li> <li>・食べ物のことについて分かったことを話し合う</li> </ul> <p>5 書く事柄を決める</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や地域の図書館から借りてきた本の題名を提示し、題材を決める手がかりとさせる</li> <li>・調べたいと思ったわけを明らかにさせる</li> <li>・文章の読み取りを苦手としている児童には、写真や絵に着目させて読ませる</li> <li>・記録カードには、「おもしろいこと」「驚いたこと」「不思議なこと」を観点として調べたことを書かせる</li> <li>・調べて分かった事を栄養や料理法、育て方、歴史、種類に分類し、興味の強い事柄を書く事柄とさせる</li> <li>・読む人にとって書く事柄が役立つわけを話し合わせる</li> </ul>
終 末  (7)	<p>6 目的をふり返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふり返しカードに題材と書こうとする事、伝えたい相手を記入させ、書く事柄と書く目的を確認させる</li> </ul>

(3) 具体の評価規準

十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する児童への支援
<p>【関】食べ物に関する本を読み、誰にどのような事柄を伝えるのかを発表している(発言)</p> <p>【書】食べ物の調べた事柄から、読み手にとって役立つことを具体的に示しながら、伝えたい事柄を決めている(記録カード)</p>	<p>【関】食べ物に関する本を読み、誰にどのような事柄を伝えるのかを決めている(記録カード)</p> <p>【書】食べ物について調べた事柄から、伝えたい理由を明確にして、書く事柄を選んでいる(記録カード)</p>	<p>【関】記録カードの内容を栄養や料理法、育て方、歴史、種類などの事柄に当てはめた上で、興味のある事柄を考えさせる</p> <p>【書】事柄ごとに、伝える意義を例示した上で、伝える理由を選ばせる</p>

< 10・11 / 18時間 >

(1) 目 標

- ・調べたい食べ物の本の中から伝えたい事柄に関係のある部分を読むことにより、書く材料を集めることができる。 (書くこと的能力)

(2) 展 開

段階	学 習 活 動 (太字ゴシックはスモールステップ)	指 導 上 の 留 意 点 (太字ゴシックはふり返りカードの活用)
導 入 (5)	1 課題を把握する 書くざいりょうを集めよう	・材料の集めることと集めた材料の語句の意味を確かめる活動を行うことの必要性を理解させる
展 開 (78)	2 材料を集める ・集めるために必要な本を選ぶ ・本の調べ方を知る ・本の内容を記録カードに書き込む 3 語や文の意味を確かめる ・意味を調べる必要のある言葉を確認する ・言葉の意味を調べ、記録カードに添付する	・前時の記録カードから、調べるための本の題名を確認させる ・本の見出しや目次、索引の活用の仕方を理解させ、必要な材料が書かれている部分を探させる ・本の文章から要点となる語句を写すことを理解させる ・素早く書き写す必要性を理解させ、文章を写す際には文節をとらえて書くように指導する ・意味の分からない語句や詳しく調べる必要のある語句にサイドラインを引かせる ・国語辞典の使い方の学習をふり返らせる ・読み手にとって特に難しいと思われる言葉を考えさせてから、調べさせる
終 末 (7)	4 目的をふり返る	・材料の集めたことにより、伝えたい事柄が詳しくなったかを観点にふり返らせる

(3) 具体の評価規準

十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する児童への支援
【書】本の内容から必要な部分だけを選んで書き抜いたり、要約しながら書いたりしている	【書】書こうとする事に関係のある材料を本に書かれている文章を意味もとらえながら、書き抜き、収集している(記録カード)	・調べている本の中から、伝えたい事柄に関係のあるページを指摘し、読ませたる ・写真や図から分かることはないか問いかけ、記録カードに書く材料を書き込ませる

< 12 / 18時間 >

(1) 目 標

- ・調べた事柄を補ったり、削ったりしながら整理することにより、書く必要のある材料を選ぶことができる。  
(書くこと的能力)

(2) 展 開

段階	学 習 活 動 (太字ゴシックはスモールステップ)	指 導 上 の 留 意 点 (太字ゴシックはふり返りカードの活用)
導 入 (5)	1 課題を把握する 調べた事の中から書く必要のある材料を選ぼう	・集めた材料を分類した上で、材料を削ったり補ったりする活動の必要性を理解させる
展 開 (30)	2 <b>メモを分類する</b> ・記録カードの内容を類似性を考えて分類し、小見出しを付ける 3 <b>材料を選択する</b> ・小見出しに沿って材料を分類表に貼る 4 <b>材料を補う</b> ・記録カードを見直し、足りない材料を付け足す	・児童の記録カードの内容から分類の観点を予想し、提示することにより、分類の観点を考えさせる ・分類できなかった材料は、書くかどうか考えさせ、必要であれば新たに小見出しを作らせ、関係のないカードは削除させる ・説明の足りない記録カードには、本を改めて読ませ、言葉を付け足させる ・説明を付け足せない児童には、机間指導の際に内容について問いを投げかけて口頭で答えさせる
終 末 (10)	5 目的をふり返る	・調べた事柄を整理するためのスモールステップの中で、工夫や努力したことと読み手に伝わりやすくなっているかを考えさせる

(3) 具体の評価規準

十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する児童への支援
【書】書こうとする事を中心に沿って、必要な材料を選び、不要な語句を削ったり、不足している語句をカードに書き足したりしている(記録カード)	【書】書こうとする事を中心にやまとまりの小見出しに沿って、不要な材料に気付いたり、不足している材料を付け加えたりしている(記録カード)	・記録カードを分類する観点となる小見出しを例示して、選ばせる ・不要な部分や説明の不足が見られる記録カードを指摘し、記録カードを見直させる

< 13 / 18時間 >

(1) 目 標

- ・分類した材料のまとまりを文として記述させることにより、段落を意識して文章に組み立てることができる。  
(書くこと的能力)

(2) 展 開

段階	学 習 活 動 (太字ゴシックはスモールステップ)	指 導 上 の 留 意 点 (太字ゴシックはふり返りカードの活用)
導 入 (7)	1 課題を把握する 調べた事を文章にまとめよう	・記録カードに書いた事柄を書き換えた上で、文章を組み立てる必要性を理解させる
展 開 (33)	2 語や文の書き換えをする ・文末を敬体に揃える ・意味の難しい言葉を分かりやすい言葉に置き換える 3 分類した材料を文章にする ・材料を書く順序を決める ・小見出しと分類した材料をつなげる	・記録カードの行間を使って挿入や訂正、削除する方法を提示する ・小見出し書くことを知らせ、主語と述語を付け加えさせる ・記録カードに番号を付けさせ、書く順序が明らかにさせる ・小見出しを文にしたものが段落の中心文であることを指導し、短冊原稿用紙の初めに書かせる ・書き終わった児童は文章を読み返させ、必要に応じて文章を修正させる
終 末 (5)	4 目的をふり返る	・材料を文章にしたことにより、調べた事が伝わりやすくなったかをふり返らせる

(3) 具体の評価規準

十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する児童への支援
【書】読み手にとって分かりやすい言葉に書き換えたり、興味を引きつけられる順序を考えたりして、分類した材料をまとまりごとの文を書いている(短冊原稿用紙)	【書】小見出しとそれによって分類した材料をつなげて、まとまりごとの文を書いている(短冊原稿用紙)	・小見出しに「～のどんなことを教えます」というように、主語と述語を付けさせ、まとまりの中心であることを確認させる

< 14 / 18時間 >

(1) 目 標

- ・「なか」の段落の順序を決めさせることにより、段落相互の関係を考えて文章全体を組み立てることができる。 (書くこと的能力)

(2) 展 開

段階	学 習 活 動 (太字ゴシックはスモールステップ)	指 導 上 の 留 意 点 (太字ゴシックはふり返りカードの活用)
導 入 (5)	1 課題を把握する だんらくの組み立てを考え て、文章を組み立てよう	・「はじめ」「なか」「おわり」を組み立てるために、ま とめの文と書き出しの文を書くことと、「なか」あたる 調べた事の段落の順序を決める必要性を理解させる
展 開 (30)	2 まとめの文を書く ・調べた事を一文にまとめる ・自分の考えや思いを書く 3 書き出しを書く ・書き出しに書く内容を知る ・書き出しの工夫を考える 4 全体の構成を決める ・「なか」の構成の観点を知る ・「なか」の段落の順序を決める	・「このように」と指示語を付けさせた上で、調べた事 を短くまとめた文を書かせる ・題材についての今までもっていた考えから深まったこ とや読み手に呼びかけたいことを考えさせる ・書き出しは、全体の概要を紹介するために調べた事を まとめた文を入れる必要があることを指導する ・調べた事を生かした問いの文や呼びかけの文などの読 み手を引きつけるための工夫があることを指導する ・「なか」の段落の順序を決める観点には、 の順序 があることを知らせ、内容に応じて順序を決めさせる 時間的な順序 一般的な事例から特殊な事例に説明していく順序 ・順序を決める観点を考えさせ、短冊原稿用紙に書く順 序が分かるように番号をふらせる
終 末 (10)	5 目的をふり返る	・文章を組み立てるためのスモールステップの中で、工 夫や努力したことと、読み手に伝わりやすくなってい るかを考えさせる

(3) 具体の評価規準

十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する児童への支援
【書】問いかけの文や読み手へ の呼びかけの文を入れるなどの 工夫しながら、読みやすい文章 を組み立てている (短冊原稿用紙)	【書】文章の終わりの文と書き 出しに書こうとする事を中心を 明確にして書き、「なか」とな る複数の段落について目的を考 えて順序を組み立てている(短 冊原稿用紙)	・書こうとする事を中心をまと めの段落に一文で書かせる ・時間的な順序と一般的な事例 から特殊な事例に説明してい く順序のどちらが適している か助言する

< 15・16 / 18時間 >

(1) 目標

- ・文章を見直すことにより、文脈を考えて文章を書くことができる。 (書くこと的能力)
- ・指示語や接続語の使い方を理解し、必要に応じて指示語に置き換えたり、接続語を付け加えたりすることができる。 (言語についての知識・理解・技能)

(2) 展開

段階	学 習 活 動 (太字ゴシックはスモールステップ)	指 導 上 の 留 意 点 (太字ゴシックはふり返りカードの活用)
導 入 (5)	1 課題を把握する 段落をつないで、説明文を完成しよう	・完成させるために、短冊原稿用紙の内容のつながりを確かめることと、自分以外の目でも確かめてもらう必要性を理解させる
展 開 (78)	2 段落のつながりを考える ・必要に応じて指示語や接続語を付ける  3 自力で見直しをする ・原稿を音読させる ・必要に応じて挿入や訂正、削除をする  4 友だちと見直しをする   5 清書をする ・写す部分を確認する  ・原稿用紙に書く	・指示語や接続語を入れることにより、説明やその順序が分かりやすくなる場合があることを指導し、必要に応じて指示語の置き換えや接続語を挿入させる  ・誤りを見つける方法として、原稿を音読することの有効性を指導する ・見直しのポイントとして次の ~ を提示する 接続語 指示語 文体 誤字脱字  ・生活班のグループの中で2人以上に確かめさせる ・間違いや意味の分からない部分があった場合は本人に口頭で伝えさせる  ・教師が修正をした部分がある児童には個別に指導をする ・写す部分を赤鉛筆でサイドラインを引かせ、書く必要のある部分を明らかにさせる ・鉛筆の濃さとマスの中心、文字の大きさを揃える必要性を理解させる
終 末 (7)	6 目的をふり返る	・短冊原稿用紙の内容を清書にするまでのスモールステップの中で、工夫や努力したことと読み手に伝わりやすくなったかを考えさせる

(3) 具体の評価規準

十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する児童への支援
【書】伝わりやすい説明の仕方 や表現の仕方を見直して、文章 を書いている(短冊原稿用紙) 【言】段落相互の関係を明確に するための効果的な指示語や接 続語を選んでいる(原稿用紙)	【書】語句の誤りや主語と述語の ねじれがないかを確かめて、文章 を書いている(短冊原稿用紙) 【言】説明の順序が分かるよう に、指示語や接続語を付け加え りしている(原稿用紙)	・表現の誤りの箇所にサイドラ インを引いて示し、再度見直 しをさせる ・指示語に置き換えられる語句 を示したり、短冊原稿用紙の 書く順番と順序を表す接続語 を選ばせたりする



